

第27回(1995年度)サントリー音楽賞
受賞者は今井信子氏に決定

毎年わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた日本人に贈る「サントリー音楽賞」の第27回(1995年度)受賞者は、今井信子氏に決定した。

1. 1996年1月15日(成人の日)午前10時より東京丸の内の東京會館において、選考委員12名の出席により第一次選考を行い、「候補者」を選定した。
2. 引き続き3月4日(月)午前10時より、東京紀尾井町のザ・フォーラムにおいて選考委員12名の出席により最終選考会を開催、慎重な審議の結果、第27回(1995年度)サントリー音楽賞受賞者に今井信子氏が選定された。そして、同日午後開催の理事会において正式に決定された。
3. 今井信子氏の選考理由は別紙のとおり。
4. 選考委員は下記の12氏。
礒山 雅・岩井宏之・小石忠男・白石美雪・武田明倫・中河原理
丹羽正明・藤田由之・船山 隆・松本勝男・三宅幸夫・三善 晃

(50音順)

今井信子（ヴィオラ）

<贈賞理由>

今井信子氏はわが国が世界に誇るヴィオラ奏者である。ミュンヘン国際コンクール（1967年）とジュネーヴ国際コンクール（1968年）で相次ぐ最高位受賞を果たした後、欧米を中心に、世界各地の主要オーケストラとの共演や室内楽の演奏を重ね、ヴィオラの第一人者としての地位を保持してきた。1989年の秋に、フランス革命200年記念の委嘱作品であった武満徹の「ア・ストリング・アラウンド・オクターム」をパリで初演したのは、今井氏の実力を示す象徴的なできごとである。

日本においては、とりわけ独奏楽器としてのヴィオラのすばらしさを認識させた点に、今井氏の際立った功績がある。アンサンブルの内声を担う地味な楽器と思われていたヴィオラを、心から愛する者だけがなしうる深い響きで歌わせ、演奏を聴く人々に比類のない味わいを伝えてきた。近年は演奏の円熟に加えて、<カザルスホール・ヴィオラスペース>をはじめとする数々の企画に携わり、後進を育成するとともに、多角的にヴィオラ音楽を紹介してきた功は大きい。

1995年の主な活動としては、作曲家パウル・ヒンデミットの生誕100年を記念して、東京、ロンドン、ニューヨークの3大都市で繰り広げられた<インターナショナル・ヒンデミット・ヴィオラ・フェスティバル>の音楽監督をつとめたことが挙げられる。優れたヴィオラ奏者でもあったヒンデミットの業績を、ヴィオラ音楽から捉えなおそうとする意欲あふれる内容で、東京では4月2日から7日まで、カザルスホールを会場に、オーケストラ曲、室内楽曲、独奏曲を交えて一挙24作品が演奏され、連日客席を埋め尽くす聴衆に感銘を与えた。公開マスタークラスを併設したユニークな企画は、ヒンデミットの音楽への立体的な理解を深めるのに成功した。このフェスティバルの開催に先立ち、1992～93年にヒンデミットのヴィオラ・ソナタを全曲、レコーディングしたことも特筆に値する。昨年はまた、ヒンデミットやブラームスを主体としたリサイタル、および<ヴィオラ・ブーケ>と題した小品集のCDで、詩情あふれる演奏を楽しませてくれた。ブロッホの「ヘブライ組曲」といったオリジナル曲のほか、クライスラーのヴァイオリン小品も含む同CDは、広く愛好家に親しまれる選曲である。

こうして1995年は、ヴィオラ音楽の普及に尽くしてきた同氏の活動に集大成とも言うべき一年となった。これを機にサントリー音楽賞が贈られることはまことに意義深い。

<略歴>

1943年3月18日、東京生まれ。桐朋学園大学を経てイエール大学、ジュリアード音楽院に学び、1967年ミュンヘン、1968年ジュネーヴの両国際コンクールで最高位入賞。以後、欧米を拠点としてソリスト、室内楽奏者、教育者として国際的に活躍。1989年秋、武満徹がフランス革命200年記念として委嘱されたヴィオラとオーケス

トラのための“A String Around Autumn”をパリで初演、大好評を博し、小澤征爾指揮サイトウ・キネン・オーケストラとの共演で録音したCDはベストセラーとなっている。

1987年の開場時よりカザルスホールの音楽アドバイザー、'90年からは同ホールのレジデント・クアルテットのメンバーとなる。'91年に始めたカザルスホールでのリサイタルは、翌年からは「ヴィオラという楽器の可能性を追及し、その音楽性と素晴らしさを広めたい」という自身の希望で、「カザルスホール・ヴィオラ・スペース」と題したヴィオラのための演奏会シリーズへと発展、同時にヴィオラ奏者育成のためにマスタークラスを開催し、教育活動にも力を注いでいる。

1995年にはヒンデミットの生誕100年を記念して、東京、ロンドン、ニューヨークで開かれた国際ヴィオラ・フェスティバルの音楽監督を務めた。

現在、デトモルトの北西ドイツ音楽アカデミー教授。

「エイボン芸術賞」、「芸術選奨文部大臣賞」、「京都音楽賞」、「モービル音楽賞」、「毎日芸術賞」を受賞。

以 上